

令和3年度

第3回木更津市史編集委員会

日 時 令和4年3月18日（金）

午前9時30分から

場 所 木更津市役所駅前庁舎 会議室1

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 教育長あいさつ

4. 議題

『木更津市史』の刊行計画の見直しについて

5. 報告事項

6. 閉 会

議題

議題 『木更津市史』の刊行計画の見直しについて

【見直し案】

『民俗調査報告書』は、当初刊行計画では、地区（旧町村）別に9冊刊行予定であったが、新型コロナウイルス感染症により事業への影響が出ていることから、刊行見合わせていた。

部会長会議を経て民俗部会で見直しを行った結果、報告書については、木更津市域の民俗特性を考慮して、町場とその周辺地域、東京湾海辺、小櫃川中流域、里山の4地域に分類して、聞き取り調査を行い、4冊を刊行する。

（総論については、再度調整したい）

- | | |
|-------------------|------------------------------|
| ①木更津町とその周辺（マチの民俗） | 旧木更津町、旧真舟村（主に請西、桜井） |
| ②東京湾海辺（ウミの民俗） | 旧金田村、旧巖根村、旧波岡村のうち小浜・畑沢 |
| ③小櫃川中流域（カワの民俗） | 旧清川村、旧中郷村 |
| ④里山（ヤマの民俗） | 旧馬来田村、旧富岡村、旧鎌足村、小浜・畑沢を除く旧波岡村 |

【現在の刊行計画】

別表4 『木更津市史』刊行計画

※ ■■■ は、継続業務 ● は、民俗調査報告書を除く本編・目録の刊行年度

年度	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034
市史研究																				
公開講座記録集																				
木更津市史編さんだより																				
自然編(総論)																				
自然編(資料編)																				
史料編1(考古編1)																				
史料編2(考古編2)																				
史料編3-1(古代編)																				
史料編3-2(中世編)																				
史料編4(近世編1)																				
史料編5(近世編2)																				
史料編6(近現代編1)																				
史料編7(近現代編2)																				
史料編8(指定文化財編)																				
通史編1(原始古代編)																				
通史編2(中世編)																				
通史編3(近世編)																				
通史編4(近代編)																				
通史編5(現代編)																				
民俗調査報告書																				
民俗編(総論)																				
民俗・芸能デジタルコンテンツ作成																				
目録・索引1～4(通史・史料編)																				
Web版作成・公開																				
刊行物数								1	1	1	2	2	2	2	2	4	1	1	1	1

報告事項

1 令和3年度刊行物

『木更津市史編さんだより』第6号（令和3年11月3日発行）

『木更津市史研究』第5号（令和4年3月31日発行予定）

2 木更津市史編さん部会設置要綱の改正について

第2回木更津市史編集委員会で、承認いただいた部会名の変更について、要綱を改正し、令和3年10月1日より「編集部会」から「編さん部会」へ名称が変更されました。

3 木更津市史編さん事業におけるデジタルアーカイブ化及び公開事業の実施について

Web版『木更津市史』の作成に先駆け、資料のデジタルアーカイブ化を令和2年度から3年度で実施した。令和4年度5月より公開予定。

本事業は、『木更津市史』編さん事業の取り組みとして、貴重な木更津市の歴史資料のひとつである千葉県指定有形文化財「天正検地帳」や、真里谷にある真里谷城跡、天神台城跡、要害城跡の3城の「木更津の城」の陰陽図等を、デジタル化により保存し、インターネット上で継続的に資料を提供・公開するもの。

木更津の歴史資料をインターネット上で手軽に見ることができ、市民の郷土木更津の歴史への関心を高める効果が期待できるとともに、木更津市の歴史や文化に関する情報を全国に発信し、木更津の魅力を広く紹介します。

木更津市史編さん部会調査等進捗報告

部 会 名	考古部会	部会長名	加藤修司
-------	------	------	------

令和3年 1月から 令和3年 12月までの 実施内容・進捗状況	総 説 章立て、目次、凡例等の原案及び全体遺跡地図完成。 デジタル編集まで完了 30 ページ。 1 旧石器時代 掲載予定遺跡選別作業中、現在までに 21 遺跡予定、石器等再実測実施中。 2 縄文時代 掲載予定遺跡選別作業中、現在までに 45 遺跡予定、資料調査中。 3 弥生時代 掲載予定 46 遺跡、デジタル編集まで完了 44 遺跡、進捗率 96%。 265 ページ執筆完了。 4 古墳時代 (1) 重要古墳 ・金鈴塚古墳の掲載方法について検討中。 (2) その他の古墳及び集落遺跡 掲載予定 105 遺跡、デジタル編集まで完了 41 遺跡 進捗率 39% 327 ページ執筆完了。 5 奈良・平安時代 掲載予定 55 遺跡、原稿まで完了 44 遺跡、デジタル編集まで完了 43 遺跡、進捗率 78%、312 ページ執筆完了 6 古代人骨 諏訪谷横穴出土人骨の観察結果をまとめている（市史研究及 5 号および 2022 年日本考古学協会口頭発表にて提示）。 一つの横穴には 10 体程度の被葬者が埋葬されており、報告書の記載より多いことが明らかとなっている。 遺伝情報については、国立歴史民俗博物館（藤尾教授）および科学博物館（神澤研究官）の協力を得て、成果をまとめている。 古墳時代に属さない渡来銭が含まれており、追葬などの確認のため、年代測定も併せて実施中（補正作業の都合上、市史研究には間に合わず、発表媒体を検討中）。 原山氏を中心に諏訪谷横穴 5 号 1 号人骨に関する所見をまとめている（市史研究 6 号に掲載予定）。 7 中世 (1) 資料作成 小字集成図完了、事務局にも提出済 (2) 本間委員との共同作業、板碑・石塔の調査石造物 についてはコロナ禍等により中断中。 8 石造物 板碑・石塔の調査中断中。 (10 月：事務局からの依頼により（旧米国戦闘機）B29 部品の三次
---------------------------------------	--

	元計測を実施、成果を提出) 9 墨書土器等文字資料 12 遺跡 30 点について集成、デジタル編集まで完了。 まとめ adobe InDesign によるデジタル編集まで完了したページは、総説～奈良・平安時代までで既に 934 ページに及んでいるが、時代によって進捗率の差が大きい。
これまでの取組に係る 課題点・懸案事項	(1) コロナ禍等によって、各委員との協議、共同作業、資料の再実測・再撮影及びカラー化作業が中断している。 (2) 市史は「web 上での公開」を前提にしているが、編さん部会ではどの程度までデジタル化作業が必要で、最終的に印刷等委託業者はどこまでやってくれるのか等が不明である。原稿がある程度揃った段階で事務局と協議したい。 (3) 考古部会ではすべての文章、図版等について InDesign によりレイアウトまで作成予定である。このため紙による印刷を行った場合でも費用はかなり安くなるはずである。少しでも紙印刷での刊行ができないものなのか、他の部会との兼ね合いもあるが、編集委員会等で再度協議を願いたい。
令和 4 年 1 ～ 3 月及び 令和 4 年度の活動計画	(1) 旧石器時代～中世 ① コロナ禍の状況によっては潮見作業所、郷土博物館、県財団等で資料の再撮影、再実測、カラー化作業を開始したい。 ② 令和 4 年度末を目標に、すべての時代の文章原稿は完成したい。 ③ 墨書土器等文字資料についてはまとめ次第、古代部会に提示予定。 (2) 古代人骨 人骨作業は終盤にさしかかる予定。原山氏を中心に実施する諏訪谷横穴 5 号 1 号人骨に関する所見を報告、終了したのちは、人骨に関する作業はかなり少なくなる (3) 石造物 ① 石塔の調査 3 月は比較的時間に余裕があるので、コロナの状況にもよるが、個人でできる調査を再開したい。対象：愛染院宝篋印塔、自在寺大随求塔、来迎寺五輪塔、天神前遺跡出土石塔。 ④ 板碑の調査。小高委員と相談のうえで実施を検討する。 ③ 整理作業・原稿執筆 すでに三次元計測を行った、東泉寺五輪塔、長楽寺五輪塔、福寿寺宝篋印塔、鎌田家五輪塔・板碑、選擇寺墓標・無縫塔・保科正重関係石造物の整理作業および原稿執筆。

木更津市史編さん部会調査等進捗報告

部会名	古	代	部会長名	河	名	勉
令和3年1月から 令和3年12月までの 実施内容・進捗状況	令和3年年1月30日 古代部会の例会にかえて コロナで公民館が休館となり、例会が中止になる。予定していた内容の一部を郵送し、例会にかえる。 ・令和3年度の作業計画（案） ・入稿原稿作成の進行状況（令和2年12月段階） ・『木更津市史史料編古代』原稿作成における諸注意（第1版） 5月2日 古代部会第40回 ・『木更津市史史料編古代』の採録史料の確認（令和3年4月15日版） ・古代部会の活動計画（案）—令和3・4年度— ・『木更津市史史料編古代』入稿原稿の検討 『公卿補任』藤原道雄、『藤原長能集』、『権記』長保2年7月21日条等 ・平安時代の除目について 6月6日 古代部会第41回 ・事務局との打ち合わせ前の確認事項 『木更津市史』の刊行計画と造本要領、『木更津市史史料編古代』の本文の組見本、構成（案）について ・『木更津市史史料編古代』入稿原稿の検討 『藤原長能集』と藤原長能について 『続日本紀』大宝元年6月条、和銅元年3月条等 ・高橋虫麻呂と上総国訪問 7月18日 古代部会第42回 ・『木更津市史史料編古代』入稿原稿の検討 『千葉県史』になく、『市原市史』に採録された史料について 『続日本紀』霊龜元年5月条、霊龜2年5月条 ・墨書土器「赤穂寺」 8月29日 古代部会第43回 ・事務局（文化課）との打ち合わせ すべての刊行物をCDなどデジタル媒体にするとのことを踏まえて、「本文」についての基本的なスタンスが確認された。 編集作業→古代部会専用の原稿用紙で提出→事務局の対応 A事務局にて該当史料をスキャナでとり原稿作成（印刷会社）。 B印刷会社が組見本に基づき作成。AかBは予算次第か。 →校正作業 → 製本（紙媒体）→CDなどのデジタル媒体 いずれにせよ編集作業から製本作業までは必要なので、今まで古代部会で検討してきた内容で作業を進める。頭注は可能な範囲、史料解説等は「ワード」原稿で提出する。					

	9月26日 古代部会第44回 ・事務局との打ち合わせの確認事項 ・『木更津市史史料編古代』入稿原稿の検討 『続日本紀』天平勝宝元年閏5月条・天平勝宝元年8月条等 『日本霊異記』禅師広達について 10月31日 古代部会第45回 ・『木更津市史史料編古代』入稿原稿の検討 『古語拾遺』、『古事記』中巻景行天皇等 『正倉院調庸綾紬布墨書銘文』天長5年11月等 ・『古語拾遺』の「麻」と「総国」について 12月5日 古代部会第46回 ・『木更津市史史料編古代』入稿原稿の検討 『日本書記』景行天皇40年条、崇峻天皇5年11月条等 『日本書記』景行天皇40年条の書き下し文の採用について
これまでの取組に係る 課 題 点 ・ 懸 案 事 項	① 『木更津市史史料編古代』の原稿作成における諸注意（第1版）を、現在までの入稿原稿の作成作業を踏まえて、改定し、「第2版」を作成する必要がある。その作業を通して『木更津市史史料編古代』の特色を再確認する必要がある。 ② 『木更津市史史料編古代』の構成（案）を再検討する。
和4年1～3月及び令 和4年度の活動計画	古代史料編の活動計画案は、次のとおりである。 1年目（平成29年度） 採録史料の選択作業 2年目（平成30年度）～5年目（令和3年度）入校原稿の作成作業 （採録史料を原史料から作成し、内容を検討し、採録範囲と頭注の作成）。「史料」の解題作成。 6年目（令和4年度） 校正作業。 令和4年1～3月は、入稿原稿の作成作業を終了し、入稿原稿を提出する予定である。 令和4年度は、「史料」の解題等を作成し、改めて入稿原稿を再整理して、提出し、校正作業に取り組む予定である。

木更津市史編さん部会調査等進捗報告

部 会 名	中世史部会	部会長名	滝川 恒昭
-------	-------	------	-------

令和３年 １月から 令和３年 12月までの 実施内容・進捗状況	中世部会が扱う範囲は、鎌倉期から戦国末期（移行期を含む）である。部会ではそれぞれの時代区分と、木更津の中世を特徴付ける「上総武田氏」「上総里見氏」「中世海運・湊」「上総鋳物師」といったテーマについて担当者を決め、あとはそれぞれが役割分担として史料の蒐集にあたる方式でこれまで作業を進めている。 ただ昨年に続き、新型コロナウイルス感染の拡大増加による移動制限や各種公共機関の使用制限が続き、主たる調査対象の、個人宅・公・私・大学図書館・博物館・文書館等は、すべて閉館・制限開館という状況となり、事実上通常の調査は困難となっている。 そのため現在では昨年同様、対象に該当する史料を発見・確認するため、東京大学史料編纂所・国立公文書館内閣文庫・国立国会図書館・国文学資料館・国立歴史民俗博物館・京都大学博物館をはじめとする各種史料保存機関・大学図書館等が公開している膨大なデジタル資料を検索する作業が中心とならざるをえず、現在はそのデーターをそれぞれで蓄積・整理しているところである。
これまでの取組に係る 課題点・懸案事項	デジタル資料は、著作権等の関係ですべてが公開されているわけではなく、機関によってはごく一部にとどまっているところも多い（たとえば東京大学史料編纂所・国会図書館等）。 ただこのような状況が続いていく限りにおいて、現状では一番有効かつ現実的な調査方法であり、当面はこの方法が主力とならざるを得ない。コロナ感染が落ち着いた時点で、これらの機関の直接閲覧でした許可されない史料の調査を実施したい。
令和４年１～３月及び 令和４年度の活動計画	昨年度、活動計画であげた対象は、コロナ感染だけでなく、調査費の関係で実施できなかったところがほとんどである。本年度もその状況は大きく変わらないようであるが、継続してデジタル資料の検索と、そこでは未公開とされている資料の調査が優先となる。 地域の史料としては、前回の市史の刊行から年数が経っている富津・木更津市内の寺社・個人宅における古文書・金石文調査の実施が最優先される。 特に富津市内は、本格的調査が未実施のところが多く、今後集中的に調査を実施することによって、上総武田氏・上総里見氏・中世海運といったテーマに関する新史料の発見が大いに期待される。 また費用面と感染状況で可能となったら、里見氏や武田氏と関係の深かった越後上杉氏の史料調査のため、新潟県内の史料保存機関の調査を実施したい。

木更津市史編さん部会調査等進捗報告

部 会 名	近世部会	部 会 長 名	小 関 悠 一 郎

令和 3 年 1 月から 令和 3 年 12 月までの 実施内容・進捗状況	令和 3 年は、新型コロナウイルス感染症の影響による活動の制約が続き、特に個人宅を対象とする史料調査については限定的な実施となったが、史料収蔵機関での史料調査や既調査史料の整理を実施し、一定の進捗をみた。 また、部会長会議の実施と審議結果も踏まえ、資料編の章立てや執筆分担の検討を行った。打合せでは、資料編への掲載候補となる史料の選定を進めるとともに、今後調査が必要となる史料のリストアップ作業を進めた。以上の検討は、オンラインで行った 2 回の部会打合せを通じて進めたものである。 令和 3 年の近世部会における具体的な活動は以下の通りである。 ・ 部会打合せ（オンライン）の実施（7/3、12/21） ・ 部会長会議への出席 ・ 下郡・鈴木博雄家文書（近世分）の史料目録作成（終了） ・ 下郡・善場家文書（近世分）の史料目録作成（終了） ・ 矢那・加藤家文書（近世分）の史料目録作成（終了） ・ 高柳・高木家文書の写真撮影（終了） ・ 小浜・大澤家文書、下郡・鈴木博雄家文書の翻刻 ・ 千葉県文書館収蔵史料の調査（継続） ・ 資料編の章立て（目次）の決定（暫定） ・ 資料編の執筆分担の決定 ・ 資料編掲載候補史料、および今後調査が必要な史料のリストアップ作業（継続）
これまでの取組に係る 課題点・懸案事項	現在、資料編近世 2 の刊行予定が令和 11 年度、通史編が令和 12 年度となっているが、部会での作業量を考慮すると、2 年連続の刊行は難しい。そのため、資料編近世 2 の刊行予定を令和 10 年度に変更するのが望ましい。 個人宅での史料調査が十分進捗するか懸念される。
令和 4 年 1 ～ 3 月及び 令和 4 年度の活動計画	・ 部会打合せの実施（2 回程度、オンライン予定） ・ 千葉県文書館、木更津市郷土博物館金のすず、袖ヶ浦市郷土博物館収蔵史料の調査 ・ 市内外旧家等の訪問調査実施（可能な場合） ・ 資料編掲載候補史料、および今後調査が必要な史料の選定（既調査史料については選定作業を完了させる予定） ・ 部会委員による市史関係史料の検討月例会の実施

木更津市史編さん部会調査等進捗報告

部 会 名	近現代部会	部会長名	池田 順
-------	-------	------	------

令和3年 1月から 令和3年 12月までの 実施内容・進捗状況	(1) 機関・団体等調査 ①千葉県文書館 新聞の木更津市域に関する記事の選定・撮影等を行った（7割程度終了）。 ②木更津市役所 所蔵文書中から重要資料を選定し、その目録作成・撮影を行った（4割程度終了）。 ③旧畑沢土地区画整理組合 組合文書の袋詰め・目録作成、重要資料の撮影を行った（終了）。 ④木更津漁業協同組合 組合文書の袋詰め・目録作成、重要資料の撮影を行った（終了）。 ⑤木更津第一小学校 学校沿革誌等所蔵文書の撮影を行った（終了）。 (2) 家文書調査 ①鈴木博雄家（下郡） 資料の袋詰め・目録作成・撮影を行った（9割程度終了）。 ②菱田忠義家（富津市） 資料の袋詰め・目録作成・撮影を行った（4割程度終了）。 ③曾根善範家（岩根） 資料（日記）の撮影を行った（終了）。 ④加藤弘典家（矢那） 資料の袋詰め・目録作成・撮影を行った（終了）。 ⑤安藤小平家（岩根） 資料の袋詰め・目録作成・撮影を行った（終了）。 ⑥鈴木茂家（上烏田） 資料の袋詰め・目録作成・撮影を行った（終了）。 ⑦伊藤川魚店（新田） 新規借用資料の袋詰め・目録作成・撮影を行った（終了）。 ⑧善場稔家（下郡） 襖資料の袋詰め・目録作成・撮影を行った（終了） (3) 建物調査 近現代部会で、これまでの建物調査の結果をスライドを使用して報告した。茅野地区や万石地区のフィールドワーク、桜井厳島神社調査の打合せなどを行った。
---------------------------------------	--

これまでの取組に係る 課 題 点 ・ 懸 案 事 項	史料編の刊行に向け、掲載候補史料の選定を始めたところであるが、史料を掲載するにあたって必要とされる史料の筆耕のめどがたっていない。編さん部会員も筆耕を行う予定であるが、それだけでは不十分であり、筆耕を引き受けてくれる方の確保が不可欠である。また、筆耕を行うための基準となる筆耕要領の作成も急務である。 これまで、宗教関係の資料がほとんど収集できていない。八劔八幡神社や選擇寺など主要な社寺の資料調査を行う必要がある。
令和４年１～３月及び 令和４年度の活動計画	①千葉県文書館で、新聞の木更津市域に関する記事の選定・撮影等を行う。 ②木更津市役所文書の目録作成・撮影を行う。 ③鈴木博雄家文書の袋詰め・目録作成・撮影を行う。 ④菱田忠義家文書の袋詰め・目録作成・撮影を行う。 梶家（濱田屋）の襖資料の袋詰め・目録作成・撮影を行う。 ⑤資料調査のためのフィールドワークや建物調査を行う。 ⑥史料編掲載候補史料の選定を進め、筆耕を行う。

木更津市史編さん部会調査等進捗報告

部 会 名	民俗	部会長名	和田 健
令和 3 年 1 月から 令和 3 年 12 月までの 実施内容・進捗状況	新型コロナウイルス感染拡大が続く令和 3 年は、編集委員会に報告したとおり、対面の聞き取り調査を極力控えることにした。 以下聞き取り調査を行わない間の活動状況について述べる。 ・民俗編刊行計画の再検討を部会で実施し、報告書刊行を大字単位ではなく、町、海、川、山で地域区分をして一つのまとまりで編集することとした。 ・八剱八幡神社例祭に関わるこれまでの聞き取り資料の整理を行い、市史研究に報告を行った。 ・木更津、朝日、文京中央地区周辺の地名に関わる聞き取りを行い、市史研究に報告を行った。 ・これまでの木更津地区の口承文芸収集を整理して市史研究報告を行った。		
これまでの取組に係る 課題点・懸案事項	市民から提供をお願いする日常の写真の収集、整理、利用上の管理についてルールを早急に確立せねばならない。まずは民俗部会において、管理利用のモデル案を作り、編纂事業全体での管理運営のあり方が検討できるよう努めたい。		
令和 4 年 1 ～ 3 月及び 令和 4 年度の活動計画	上記写真などの資料収集、管理のあり方を確立させる。 また『マチバの民俗』目次構成、執筆者分担を定め、コロナ禍の様子を見て、対面調査の再開時期を見定める。それまでは、既存の資料の整理を行い、市史研究に報告を行う準備に努める。		

木更津市史編さん部会調査等進捗報告

部 会 名	自然部会	部 会 長 名	山田 真
令和３年 １月から 令和３年 12月までの 実施内容・進捗状況	環境分野 ・資料編の原稿の作成、12月までにほぼ完成 地学分野 ・一部未確認地域の現地調査、上泉層の未確認テフラを見出した。 ・資料編の原稿の作成 ・総論原稿（第１章地形、第２章地質）の作成・査読 植物分野 ・資料編原稿の作成、12月までにほぼ完成 ・中央博との協議 動物分野 ・現地補完調査ほぼ終了 ・資料編執筆体裁と目次（案）の作成 ・資料編の原稿の作成、12月までにほぼ完成 ・市史研究の原稿作成		
これまでの取組に係る 課題点・懸案事項	地学分野 ・下総層群上部（木下層・姉崎層・常総粘土）は、市街地化が進んだ地域に分布するため、かなり困難であるが、調査を続けてみたい 植物分野 ・維管束植物以外(コケ類、藻類、菌類、地衣類)の専門家がない		
令和４年１～３月及び 令和４年度の活動計画	環境分野 ・総論原稿作成準備 地学分野 ・未確認の下総層群テフラの発見・記載する ・資料編（第３章 大地）の完成 ・総論の下書き原稿（第１章地形、第２章地質）の完成 ・総論（第３章地史）の下書きを作成 植物分野 ・一部地域の現地調査 ・総論原稿の試案作成 ・市史研究原稿の作成 動物分野 ・資料編原稿の不足部分の補完 ・市史研究原稿の作成		